

七条中学校だより6月18号

京都市立七条中学校

令和8年6月23日

発行：校長 林 秀雄

沖縄慰霊の日 — 過去を知り、今を見つめ、未来をつくるために

6月23日は「沖縄慰霊の日」です。この日は、1945年6月23日に沖縄戦の組織的戦闘が終わったとされる日であり、沖縄県では正午に黙祷を捧げ、戦争で亡くなられた方々を追悼します。また、住民を巻き込んだ激しい地上戦で多くの尊い命が失われた歴史を忘れないため、1961年に沖縄県が公式に「慰霊の日」と定め、平和を祈る日として受け継がれてきました。沖縄戦では、住民の4人に1人が亡くなったとも言われています。多くの一般市民が戦禍に巻き込まれ、日常や家族、そして未来を奪われました。私たちは、この悲しい歴史から目を背けることなく学び続けなければなりません。

一方で、今の世界に目を向けると、各地で紛争や対立が続き、多くの人々が不安な日々を送っています。国と国、人と人との衝突によって平穏な暮らしが失われている地域も少なくありません。つまり、戦争は決して過去だけの出来事ではなく、今も世界のどこかで起きている現実なのです。

では、日本で暮らす私たち、そして七条中学校の生徒たちに何ができるのでしょうか？沖縄の歴史や世界のニュースに触れたとき、「かわいそうだな」「大変だな」と感じるだけで終わるのではなく、「自分には何ができるだろう」と考えることが大切です。そのために、次のような問いを自分自身に投げかけてみてください。

- 自分の言葉や行動は、誰かを傷つけていないだろうか。
- 相手の気持ちを想像することができているだろうか。
- 違いを認め合う姿勢を持つことができているだろうか。
- 困っている人に気づいたとき、どのように行動するだろうか。
- 自分の周りの「平和」を守るために何ができるだろうか。

これらの問いは、すべて「平和をつくる力」につながっています。平和は遠い国の出来事でも、特別な人だけがつくるものでもありません。教室での温かな声かけ、友だちへの思いやり、学び続ける姿勢、仲間と協力する心。その一つ一つの積み重ねが、学校の平和をつくり、やがて社会の平和へとつながります。

沖縄慰霊の日は、過去を思い、今を見つめ、未来を考える日です。世界が不安定な今だからこそ、七条中学校の皆さん一人一人の「小さな優しさ」や「小さな勇気」が、未来をよりよいものへと変えていく力になります。今日という日を、自分の周りの平和について考える機会にしてほしいと思います。そして、未来につながる一歩を、それぞれが踏み出してくれることを願っています。

定期テストを終えて3 テストは「終わった後」が大切

定期テストが終わり、これから解答用紙が返却されます。みなさんは、返ってきたテストを手にしたとき、まず何を見ますか。多くの方は点数を確認するでしょう。そして、「よかった」「残念だった」と感じるかもしれません。しかし、テストの本当の目的は、点数を知ることだけではありません。テストは、自分が「できたこと」と「まだできていないこと」を見つけるためのものです。間違えた問題には、これから成長するための大切なヒントが隠れています。授業で答え合わせをして、解答用紙をファイルに閉じて終わり、という人はいませんか。それでは、せっかくのテストを十分に生かしたとは言えません。大切なのは、「なぜ間違えたのか」を考え、「分からなかったことを分かるようにする」ことです。計算方法を忘れていたのか、漢字を正確に覚えていなかったのか、問題文の読み取りが不十分だったのか。自分の課題を知り、できるようになるまで復習することが学力向上につながります。

例えば、数学で計算問題を間違えたなら、もう一度同じ問題を解き直してみましょう。途中の計算でミスをしたのか、公式の使い方が分かっていなかったのかが見えてきます。英語で間違えた単語があれば、ノートに書いて覚え直し、自分で英文を作ってみるのもよいでしょう。国語の漢字で間違えた場合は、正しい漢字を何度か書き、文章の中で使えるように練習してみてください。社会や理科では、正解だけを覚えるのではなく、「なぜそうなるのか」を教科書や資料集で確認することが理解を深めることにつながります。

また、80点を取った人でも、20点分の「これから学ぶべきこと」があります。逆に思うような点数が取れなかった人も、間違えた問題を見直して理解できれば、それは確かな成長です。大切なのは点数そのものではなく、その結果を次の学習にどう生かすかです。「何点だったか」よりも、「何が分かって、何が分からなかったか」に目を向けてください。テストはゴールではありません。次の学びにつなげるための通過点です。返却された解答用紙をもう一度見直し、一つでも多くの「分からない」を「分かる」に変えていきましょう。